

# 環境レポート

対象期間：2020年11月～2021年10月

## 有限会社 佐々工業所



発行日：2022年8月1日

# 目次

1. 会社概要	2
2. 環境経営方針	4
3. 組織図	5
4. 環境経営目標	6
5. 環境経営計画の実績および評価	7
6. 取組事例紹介	12
7. 次年度の取組内容	13
8. 環境関連法規等の順守状況	14
9. 代表者による全体評価と見直し・指示	15

# 1. 会社概要

- (1) 名称及び代表者名  
有限会社 佐々工業所  
代表取締役 佐々裕之
- (2) 所在地  
本社・工場 岐阜県可児市谷迫間551-8
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先  
代表取締役 佐々 裕之 TEL0574-66-9533
- (4) 事業内容  
金属切削加工による各種製品および治工具の製造
- (5) 沿革  
昭和43年6月 佐々鉄工所を創立(可児市塩)  
昭和53年6月 有限会社佐々工業所に変更  
平成2年7月 法人登記(有限会社 佐々工業所)  
平成18年7月 新工場(可児市谷迫間)へ移転  
平成24年5月 新工場増築  
平成26年7月 代表交代

(6) 事業の規模

従業員数 7人

床面積 498.69m<sup>2</sup>



(7) 認証・登録の対象組織・活動(全組織・全活動)

登録事業者名:有限会社 佐々工業所

対象事業所:本社・工場

活動:金属切削加工による各種製品および治工具の製造

(8) 主要設備

機種	メーカー	型式
NC旋盤	オークマ	GENOS L400H
	オークマ	LCS250T : 2台
	オークマ	オークマ他4台
	エグロ	NUCLET-10EX
マシニングセンター	オークマ	MB-56VBE
	オークマ	他3台
ワイヤーカット	FANUC	ROBOCUT $\alpha$ -C400iB



ハンドリングロボット	NACHI	MZ07
レーザーマーカ	パナソニック	LP-M200
卓上ボール盤	KIRA	KRTG-420 他3台
コンタ	LUXO	LE300
輪郭形状測定器	ミットヨ	CONTRACER CV-3100
超音波洗浄機	片倉工業(株)	US-K等 : 2台
投影機	ミットヨ	PJ-H30A2010B
工具顕微鏡	ミットヨ	MF-A1010B



取引先協力工場

放電加工、レーザー加工、曲げ加工  
熱処理、研磨、各種メッキ・コーティングなど

## 2. 環境経営方針

有限会社 佐々工業所

### 環境経営方針

#### <基本理念>

わが社は製造業を通じてお客様および社会へ貢献する事を理念とし、それに伴い事業活動における環境負荷の低減だけでなく地球規模による環境問題についても自主的・積極的に取り組みます。

#### <行動指針>

1. 事業活動において、以下の環境課題について重点的に取り組みを図ります。
  - ① 低炭素社会の実現に向け、二酸化炭素排出量の削減を推進します。
  - ② 廃棄物の削減及び再生利用を推進します。
  - ③ 水資源の節約、再利用を推進します。
  - ④ 化学物質使用量の削減に努めます。
  - ⑤ グリーン購入やグリーン調達を推進します。
  - ⑥ 製造する製品に対して、納期厳守率・良品率の向上を目指し、資源およびエネルギーの軽減を推進します。
  - ⑦ 事業活動における環境汚染の防止や環境負荷の低減に努め、社会に貢献できる企業を目指します。
2. 環境保全に関連する関連法規制や条例、その他の環境関連要求事項など当社が約束したことを順守します。
3. この環境方針達成のため全社員へ方針を周知し、必要に応じて一般へ公表いたします。

制定日： 2012年11月1日

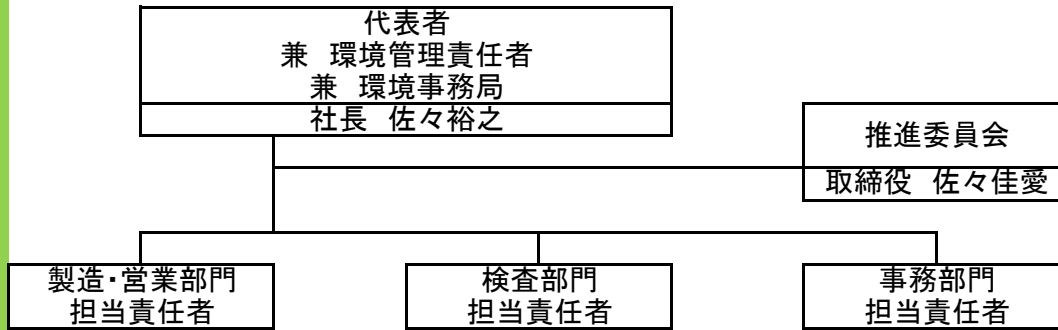
代表取締役社長

佐々裕え





# 3. 組織図

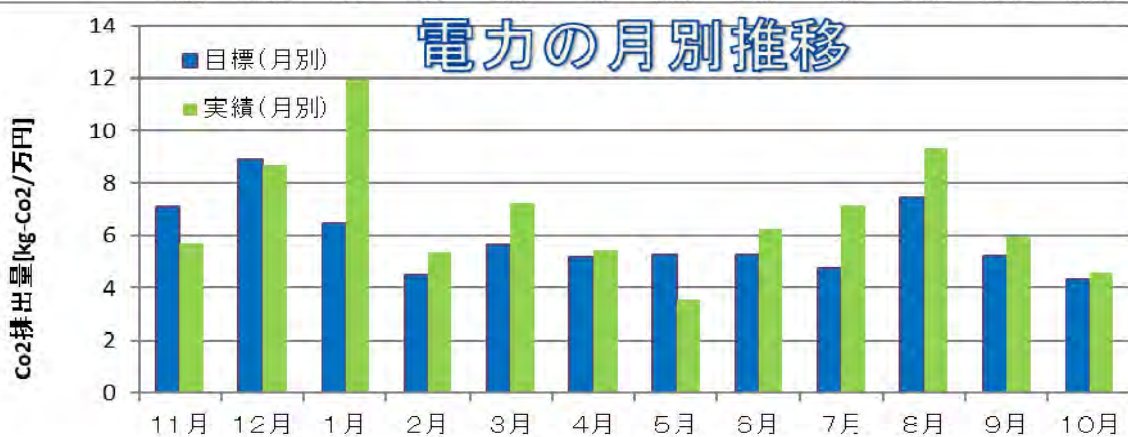
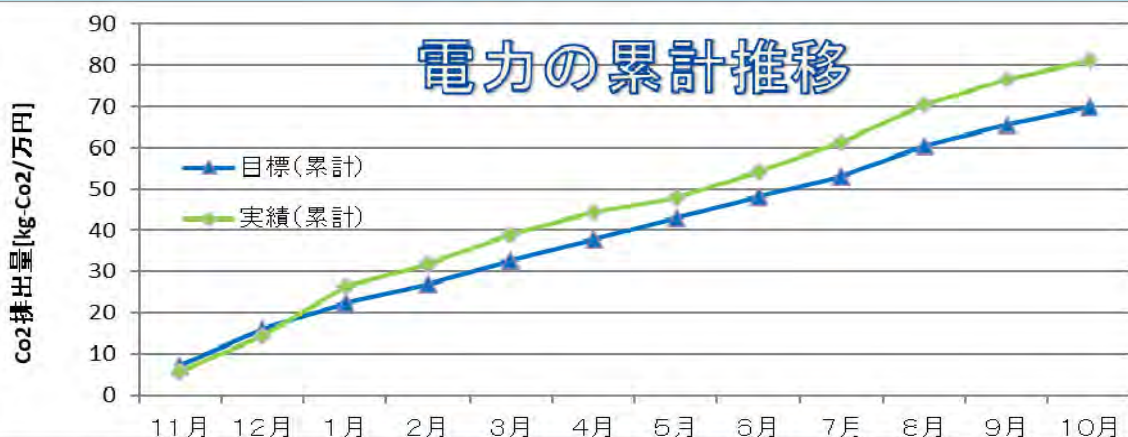


組織	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間を準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>・環境レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境レポートの確認</li> </ul>
推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営計画の審議</li> <li>・環境経営実績の確認・評価</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく順守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
各部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## 4. 環境経営目標

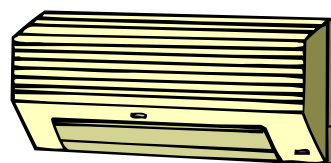
目標項目	基準値			年度毎目標		
	(基準年度)			2019	2020	2021
電力の削減 (売上に対する 炭素排出量)	2019年度	70.00 kg-CO2/万円	基準年度比	100%	100%	100%
	二酸化炭素排出係数 (2019年度係数使用) 0.572		目標値	70.00	70.00	70.00
化石燃料の削減 (売上に対する 炭素排出量)	2019年度	5.45 kg-CO2/万円	基準年度比	100%	100%	100%
			目標値	5.45	5.45	5.45
一般廃棄物の 削減	2018年度	49.0 kg/人 (推定値による) (一人当たり廃棄量)	基準年度比	100%	100%	100%
			目標値	49.0	49.0	49.0
節水	2018年度	17.0 m <sup>3</sup> /人 (一人当たり使用量)	基準年度比	100%	100%	100%
			目標値	17.0	17.0	17.0
化学物質の低減	使用化学物質 適正量管理					
良品率・納期厳守率 の向上	良品率 納期厳守率	目標値	100%	100%	100%	
小型化・軽量化の 推進	省資源化の推進					
5S活動の推進	2012年度取引先 評価合格基準		継続	継続	継続	
油水分離槽の 定期清掃	月1回実施					
近隣清掃および 共用側溝清掃	年1回実施					

## 5. 環境経営計画と実績 および評価

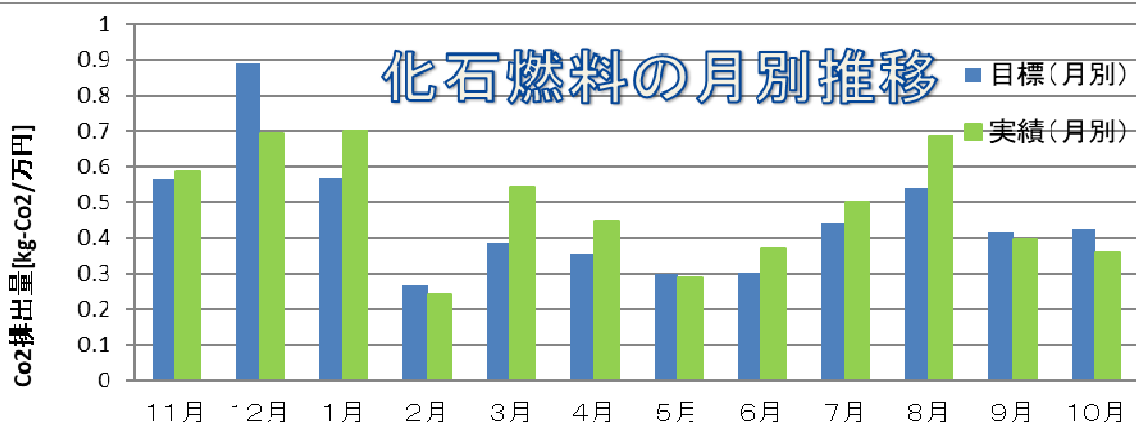
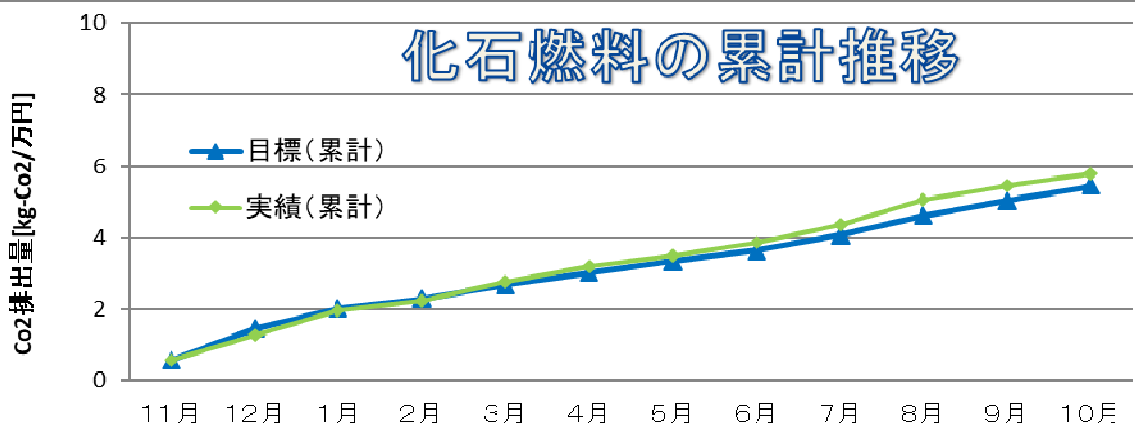


目 標		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	期間評価
電力の 二酸化炭 素削減 単位[kg- Co2/万円]	目標(月別)	7.06	8.89	6.45	4.53	5.62	5.19	5.29	5.26	4.73	7.43	5.21	4.33	目標
	目標(累計)	7.06	15.95	22.40	26.94	32.56	37.75	43.03	48.30	53.03	60.46	65.67	70.00	70.00
	実績(月別)	5.67	8.71	11.96	5.36	7.22	5.47	3.55	6.26	7.14	9.32	5.96	4.61	実績
	実績(累計)	5.67	14.39	26.34	31.70	38.93	44.40	47.94	54.20	61.34	70.67	76.63	81.24	81.24
	評 価	○	○	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	


活動計画	評価
・空調温度の適正化	今年度から売上に対する炭素排出量、という指数を用いてみたが目標値も大きく上回ってしまい生産状況に依存されるため比較しにくく有効性が低いと感じた。
・服装による冷暖房使用の抑制	
・夏季の給湯器の停止	
・空気圧縮機の自動断続運転の徹底	
・デマンドによる電力監視	



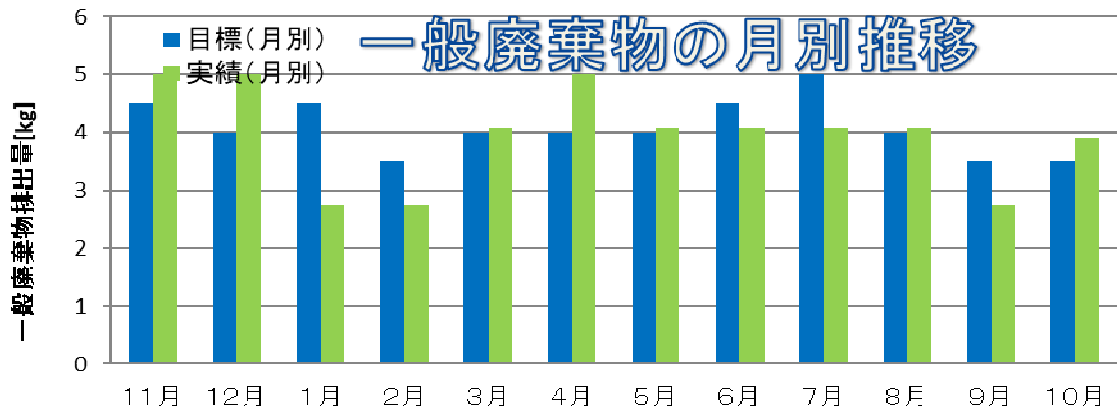
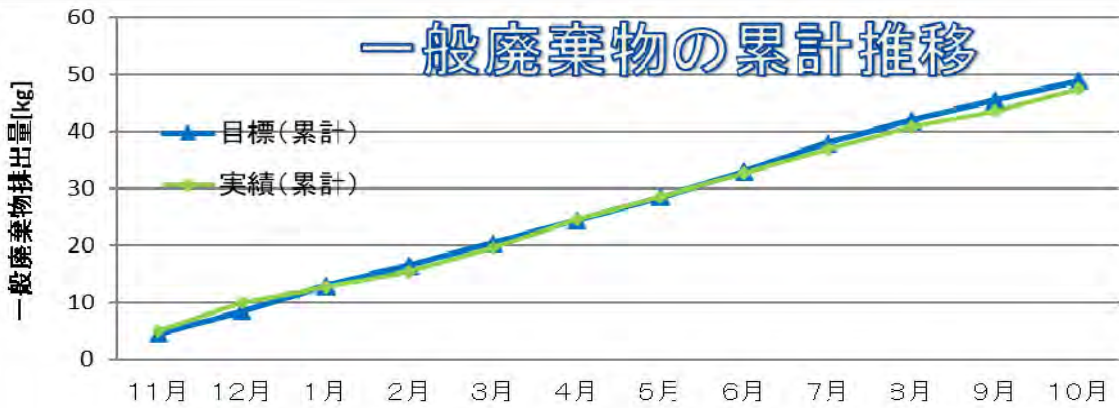




目 標		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	期間評価
化石燃料の 二酸化炭素 削減 単位[kg- Co2/万円]	目標(月別)	0.57	0.89	0.57	0.27	0.39	0.36	0.30	0.30	0.44	0.54	0.42	0.42	目標
	目標(累計)	0.57	1.45	2.02	2.29	2.68	3.03	3.33	3.63	4.08	4.61	5.03	5.45	5.45
	実績(月別)	0.59	0.69	0.70	0.24	0.54	0.45	0.29	0.37	0.50	0.69	0.39	0.36	実績
	実績(累計)	0.59	1.28	1.98	2.22	2.76	3.21	3.50	3.87	4.36	5.05	5.45	5.80	5.80
	評 価	×	○	△	○	×	×	△	×	×	×	△	△	

活動計画	評価
・アイドリングストップ	<p>こちらも電力同様、受注量・稼働日数などの減少が影響しているため売上高を指数にとりいれてみたものの比較検討がしにくい結果になってしまった。</p> 
・効率的なルートで配送	
・急加速・急停止の防止	

Co2総排出量 115261.73 kg-co2



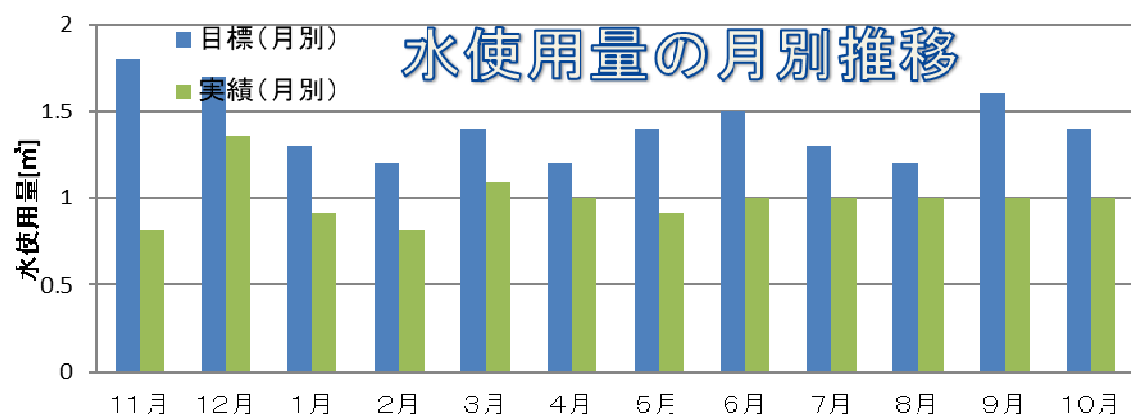
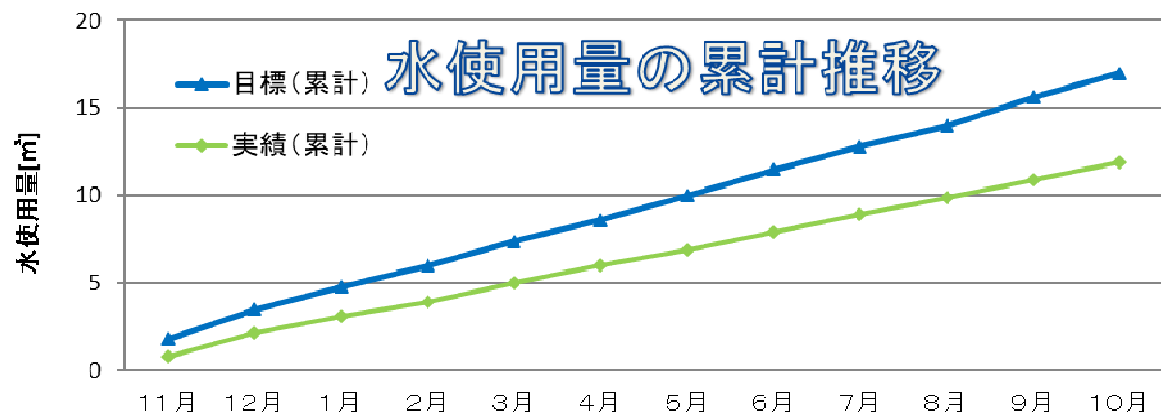
目 標	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	期間評価	
一般 廃棄物の 削減 単位[kg]	目標(月別)	4.50	4.00	4.50	3.50	4.00	4.00	4.00	4.50	5.00	4.00	3.50	3.50	目標
	目標(累計)	4.50	8.50	13.00	16.50	20.50	24.50	28.50	33.00	38.00	42.00	45.50	49.00	49.00
	実績(月別)	5.00	5.00	2.73	2.73	4.09	5.00	4.09	4.09	4.09	4.09	2.73	3.89	実績
	実績(累計)	5.00	10.00	12.73	15.45	19.55	24.55	28.64	32.73	36.82	40.91	43.64	47.53	47.53
	評 価	×	×	○	○	△	×	×	○	○	△	○	△	

活動計画	評価
・ミスコピーの防止	廃棄物の総量としては削減目標を達成できている。最近では炭素係数との関連付けを環境庁において模索しているようなので今後炭素係数との関連付けを目指していきたい。
・シュレッダーの用途限定	

#### 産業廃棄物について

- ① 定期的に発生する産業廃棄物は機械潤滑油の廃油のみであり、発生量も微量なため、一般事業系廃棄物のみに絞り活動を行った。
- ② 金属くずは有価引取の為、廃棄物とは見なさず把握のみを目的とした。





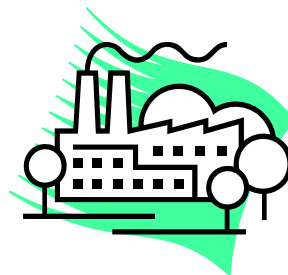
目 標		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	期間評価
水道水の削減 単位[m³]	目標(月別)	1.80	1.70	1.30	1.20	1.40	1.20	1.40	1.50	1.30	1.20	1.60	1.40	目標
	目標(累計)	1.80	3.50	4.80	6.00	7.40	8.60	10.00	11.50	12.80	14.00	15.60	17.00	17
	実績(月別)	0.82	1.36	0.91	0.82	1.09	1.00	0.91	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	実績
	実績(累計)	0.82	2.18	3.09	3.91	5.00	6.00	6.91	7.91	8.91	9.91	10.91	11.91	12
	評 価		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

活動計画	評価
・日常的な節水	ここ数年の節水意識は高く、安定した使用量削減が継続できている
・水量、水圧の調整	
・雨水貯留槽の設置	



## その他の取組

化学物質使用量の低減	
・新規導入品のSDS確認	現在社内の化学製品における該当製品はない。
・PRTR該当製品の表示管理	
・既存PRTR該当製品の切替	
良品率・納期厳守率の向上	
・設備の定期点検	日常点検・設備の定期メンテナンスなど継続している。不良分析のための統計収集も引き続き継続する。
・不良品低減(分析)	
・リードタイムの短縮	
小型化・軽量化の推進	
・顧客への省資源化の提案	教育の時間を引き続き充当できた。また退職者との引継ぎも滞りなく完了した。
・省資源製造技術者の育成	
・各種リサイクルの推進	トナーリサイクルの継続実施。
油水分離槽の定期清掃	月1回実施
近隣清掃および共用側溝清掃	感染症の影響を考え 無期延期とした。



## 6. 取組事例紹介



社内清掃用の掃除用具を用途に分けて整頓。「あるべき姿」を継続できる仕組み。

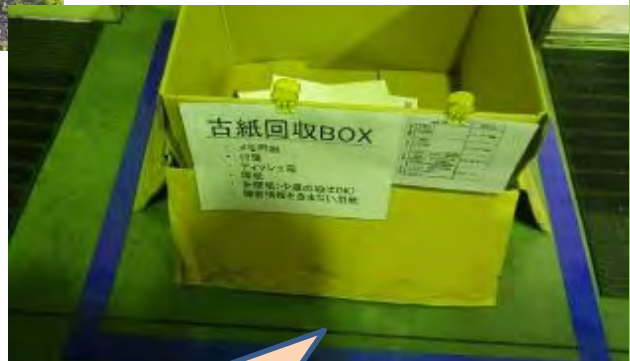
無理なく無駄なく。



業務体系にあわせて普通車から燃費の良い軽自動車へ買い替えを実施



紙ごみは回収してリサイクルへ



NEW STANDARD  
新しい標準への適応



## 7. 次年度の取組み内容

次年度より、環境活動の抜本的見直しを行う。脱炭素化へ社会が大きくシフトチェンジしていく中、再度環境活動のあるべき姿を検討し、2022年6月より事業年度に合わせた活動取組みを再構築する。

環境目標項目	取組内容	コメント
電力の削減	・空調温度の適正化	カーボンニュートラルという考え方を前提に指数を抜本的に見直す。
	・空気圧縮機の自動断続運転の徹底	
	・夏季の給湯器の停止	
	・服装による冷暖房使用の抑制	
	・デマンドによる電力監視	
化石燃料の削減	・アイドリングストップ	上記同様、抜本的見直しを検討する。
	・効率的なルートで配送	
	・急加速・急停止の防止	
一般廃棄物の削減	・ミスコピーの防止	炭素との関連性を重要視するため要検討とする。
	・シュレッダーの用途限定	
	・紙資源の回収リサイクル	
節水	・日常的な節水	節水は継続するものの、要検討とする。
	・水量、水圧の調整	
化学物質の低減	・新規導入品のSDS確認	PRTR該当製品はすべて代替品へ切り替えが完了している。
	・PRTR該当製品の表示管理	
	・既存PRTR該当製品の切替	
良品率・納期厳守率の向上	・設備の定期点検	不良を出さない仕組みづくりが最重要。
	・不良品低減(分析)	
	・リードタイムの短縮	
小型化・軽量化の推進	・顧客への省資源化の提案	さらに人材育成に力を入れていく。
	・省資源製造技術者の育成	
5S活動の推進	・5S活動の継続	取引先評価合格基準を維持・継続する
	・定例清掃の継続	
	・5Sミーティングの継続	
油水分離槽の定期清掃	・油水分離槽の点検清掃	月一回、引き続き実施する
近隣清掃および共用側溝清掃	・工場近隣清掃	感染症の影響を考慮しながら適切に実施していく。
	・共用側溝の点検清掃	

## 8. 環境関連法規等の 順守状況

### 環境関連法規等の取りまとめ表

評価日: 2021年11月19日

法規制等の名称	該当する要求事項(対応すべき事項)	順守評価
廃棄物処理法	・委託:一般・産業廃棄物の収集・運搬・処理業者の許可の確認	許可証 ○ 契約書 ○
	・産業廃棄物保管基準	適応 ○
	・委託: マニフェスト交付 管理票B2・D票は90日、E票は180日以内に送付されない場合は30日以内の知事への報告 ・管理票A、B2、D、E票の保管(5年間)	マニフェスト ○
	・産業廃棄物管理票 交付等状況報告書の提出	報告書 ○
騒音規制法	・特定施設の事前届出	新設なし ○
	・地域別騒音基準の順守	○
振動規制法	・特定施設の事前届出	新設なし ○
	・地域別振動基準の順守	○
下水道法	・水質基準の順守	○
フロン排出抑制法	・第一種特定製品の定期・簡易点検の実施	記録 ○
	・フロン類の適切な回収及び引取り証明	適正処理済 ○
家電リサイクル法	・家電排出時の適正回収・リサイクル	今回非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	・第1種指定化学物質取扱者は排出・移動量を報告(年間取扱量1トン以上で従業員21名以上の場合)	非該当
	・性状及び取扱に関する情報(SDS)の受取・発行	社内使用製品のSDS確認 ○
消防法	・危険物保管の指定数量以上の許可申請 ・危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出	非該当
グリーン購入法	できる限り環境物品等を選択するよう努める	○
取引先グリーン調達基準	・指定化学物質の管理(非使用、基準順守等) ・環境マネジメントシステムの運用	○

### 評価の結果並びに、違反、訴訟等の有無

関連法規等への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 9. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

### 1. 環境方針

次年度より、環境活動の抜本的見直しを行う。カーボンニュートラルの考え方や脱炭素化など、社会が大きくシフトチェンジしていく中で当社が目指す方向性を再度検討し2022年6月より活動内容の見直し、事業年度に合わせた活動取組みを再構築する。

### 2. 目標・環境経営計画の達成状況

目標項目	目標値達成状況	コメント
電力の削減	×	削減のための基準指針を再度見直し、経営と脱炭素の双方を両立させた方針を策定する。
ガソリンの削減	×	電気自動車などの導入も現実的になってきた。削減できるものは削減し、なくせるものはなくせるとよい。
廃棄物の削減	○	リサイクルに回せるものは率先してリサイクルし、廃棄物を減らせている。
節水	○	水回りの節水や日々の使用量の抑制効果で削減を維持できている。
グリーン購入	各種備品を再度見直し、エコマーク・グリーン購入法に適応したものを選定する。	

感染症対策をはじめとした社会混乱のなか、社員の皆さんの環境経営への協力に感謝します。

### 3. 総括

エネルギー問題、感染症、温暖化など、社会全体がいやおうなしに変革せざるを得ない時代といっても過言ではない。この問題を解決するのは「誰か」でも「いつか」でもなく、ひとりひとりが未来に対して責任があり、いますぐに対応していく必要がある。同時に企業もまた、社会的責任として低炭素、省エネルギーな環境経営を必須事項と考えなければならない。



2022年7月31日

代表取締役社長 佐々 裕之